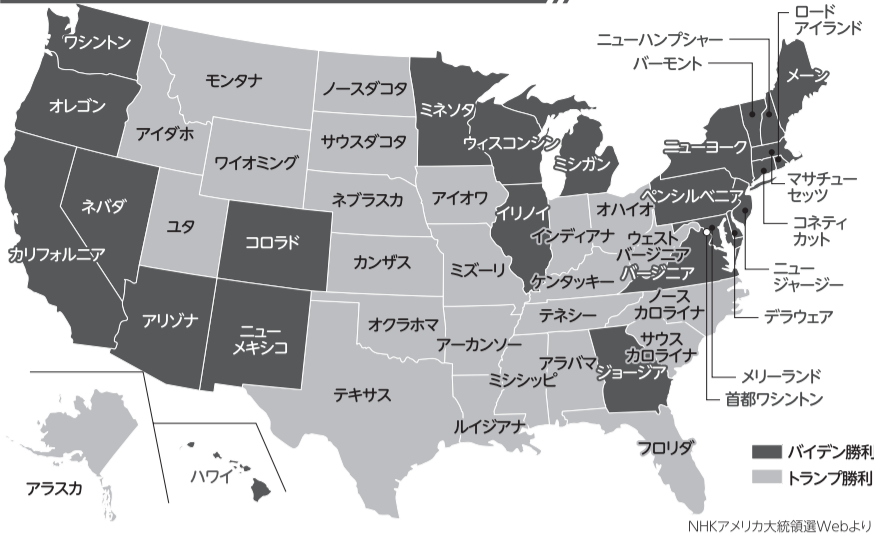


2020年アメリカ合衆国大統領選挙の結果



寄稿 分断を乗り越える世界

横浜国立大学 名誉教授 萩原 伸次郎



萩原さん

8000万を超える得票

多人種国家米民主主義の底力

米大統領選挙は12月14日の選挙人投票の結果、民主党のバイデン前副大統領の当選が確定。バイデン氏はこの日、「すべての米国民のための大統領になる」と述べました。トランプ大統領の分断政策の敗北です。萩原伸次郎横浜国立大学名誉教授に大統領選挙をめぐる何が起きているのか寄稿してもらいました。(見出しは編集部)

2020年11月3日に一般投票が行なわれた米大統領選挙では、大統領ドナルド・トランプと民主党ジョー・バイデンとの一騎打ちとなり、トランプ大統領が敗北し、2021年1月20日の就任式において、新大統領ジョー・バイデンが誕生します。この選挙は、新型コロナウイルス感染症が深刻に展

開するという中で行なわれた異例の選挙でしたが、有権者の関心は極めて高く、歴史上最高の投票数を記録しました。バイデンが、8002万票、トランプが7306万票、史上最高の投票数であり、バイデンの獲得選挙人は306人、トランプが232人、バイデンの完勝でした。バイデンは、得票数でもトランプを613万票も引き離れたのです。



12月16日、バイデン氏の大統領確定が報じられた(日本経済新聞1面)

大統領は盗まれた

4年前の大統領選挙では、トランプ大統領は得票数では、ヒラリー・クリントンに286万票も差をつけられた。マイノリティー・プレジデント(少数派大統領)であったことを思えば、今回は、バイデン勝利に、文句をつけようがないのですが、トランプ大統領は、「郵便投票は不正だ」「開票作業に不正があった

白人至上主義で扇動

抗議に連邦軍と脅し

トランプ大統領は、就任直後から移民排斥を主張し、人種差別的態度を公然と取ってきました。選挙戦では分断を煽り、白人至上主義の「アメリカ第一主義」で、人々を扇動し続けました。トランプ大統領は、少数派になりつつある有色人種への強力な戦争をけしかけ「このままでは、有色人種が

せられるという事件がありました。全米で「差別反対・黒人の命は大切だ」の大抗議行動が引き起こされました。トランプ大統領は、その抗議行動に対して、「法と秩序」を強調し、その鎮圧に連邦軍を差し向けるという発言をしたのです。「法と秩序」の強調は、1968年大統領選挙にニクソン共和党候補が使い、大統領職を射止めるのに成功した言葉で、明確に11月の大統領選を意識した言動だったといえるでしょう。しかし、事態は、トランプ大統領の思惑通りには動かず、「分断」に対しアメリカ人の「結束」を訴えてバイデンが勝利したことは明らかでした。多人種国家アメリカの民主主義の底力を示した大統領選挙であったともいえるでしょう。

不安と恐怖を利用し

差別主義主張するトランプ

アメリカ国勢調査局は、2018年3月、「有色人種の人口増加によって、2045年頃、白人は少数派になるだろう」と予測する報告書を出しました。アメリカの人口構成は、その時、白人が49・7%、有色人種の合計は、50・3%になるといわれています。この予測は、アメリカ白人に不安を掻き立てたことは明らかでした。この不安と恐怖をうまく利用して、人種差別主義を公然と主張し、大統領選に勝利することを考え実行した

下院議員に攻撃的なツイート

彼は、4年前の大統領選でも、この人種差別主義の言動を繰り返しました。「メキシコ人は、強姦魔で、麻薬密売人だ」「イスラム教徒はテロリストだからアメリカには入国させない!」。ドナルド・トランプは、大統領就任後、さっそく、1月25日、メキシコ国境に壁を築く

のが、トランプ大統領だったというわけだ。大統領令に署名しました。さらに、27日、彼は、「シリア、イラクなどイスラム国7カ国からの入国を禁止する、難民の受け入れも一時停止する」の大統領令に署名しました。この移民令は、2018年11月の中間選挙で当選した、4人の有色人種の連邦下院議員に対しての攻撃的なツイートによっても明らかです。トランプ大統領は、次のようにツイートしました。「急進的な民主党の女性議員はもともと、政府が全く機能していない国、世界一腐敗して他のどこよりも無能な政府の国から来たのに、今や大声でアメリカ政府を罵倒している」とは、実に興味深いものだ。もとい国へ帰ってポロポロで犯罪まみれの地元を直す手助けをしたらどうか」というのです。4人の下院議員とは、ニューヨーク州選出、アンドレア・オカシオ・コルテス(フェルトリコ系)、ミシガン州選出のラシータ・タリブ(パレスチナ系)、マサチューセッツ州選出のアヤナ・プレスリー(アフリカ系)、そして、ミネソタ州選出のイルハン・オマール(ソマリ系)の4人です。

格差は開くばかり 最賃15ドルの公約が効果

この有色人種攻撃によるトランプ大統領の思惑は、ほんの少数の富者と多数の貧困者の対立を白人と有色人種との対立にすり替え、有色人種がのさばること、白人の命と暮らしが脅かされていると偽り、大統領職をかすめ取ることにあったといえるでしょう。4年前の大統領選挙

では、とくに、「錆びついた地帯」といわれる、かつて産業が栄え、しかし現在は、産業が衰え低賃金にあえぐ白人労働者が多くを占めるウイスコンシン、ミシガン、ペンシルベニアの3州において、トランプは産業の再興を訴え、勝利したのです。今回もトランプ大統領は、この3州での勝利を確信し、この地域での運動を強めたのですが、「柳の下にいつも泥鰌がいる」とは限りません。今回は、ジョー・バイデンの勝ち、民主党進歩派の主張する連邦最低賃金時給15ドルの公約が効いたのです。4年前は、トランプの口車に乗って彼に投票

人種間の結束訴えたバイデンが勝利

人種間の結束を訴えたジョー・バイデンが、分断と人種差別を煽ったトランプに勝利したのです。バイデンの8000万票を超える得票数は、多人種国家アメリカ民主主義の矜持を示したともいえるでしょう。